

高所作業台 『のぼる君』

取扱説明書

ご使用前に、必ずお読みください。



目 次

はじめに	・・・ P1
1. 機械の仕様	・・・ P3
2. 使用方法	・・・ P5
3. 非常時の降下について	・・・ P7
4. 充電器の仕様	・・・ P8
5. 吊り込み方法	・・・ P9
6. 作業台の設置にあたって	・・・ P11
7. 使用上の注意	・・・ P11
8. 試運転	・・・ P11
9. 操作電気回路図	・・・ P12
10. 油圧回路図	・・・ P14
11. 保守・点検	・・・ P16
12. トラブルシューティング	・・・ P17
13. 各部の名称及びグリスアップ点検	・・・ P19
14. 高所作業台始業前点検記録表(使用時は毎日)	・・・ P21
15. 定期検査表(自主検査で3ヵ月ごとが適当)	・・・ P22
結び	・・・ P23

はじめに

このたびは、弊社製品をお求めいただきまして、まことにありがとうございます。

本機をご利用いただくにあたり、ご使用前に本取扱説明書を熟読され、常に正しい取り扱いと特長を生かした使い方をしていただければ、作業効率の向上にお役立てできるものと確信しております。

なお、本書に反するご使用は故障を起こす原因となり、危険を伴いますので、本書は大切に保管され、わからないときは再読してください。

【危険・警告・注意の定義】

 **危険** 記載されている事項を守らないと、死亡または重傷を負う危険があり、かつ重大な危険が発生する度合いが高いことが想定される内容を示します。

 **警告** 記載されている事項を守らないと、死亡または重傷を負う危険想定される内容を示します。

 **注意** 記載されている事項を守らないと、傷害を負うかまたは物的損害が発生する危険が想定される内容を示します。

図記号の例

 △記号は注意(警告・危険を含む)を示します。具体的な注意内容は、△の中や近くに文章や絵で示します。

左図の場合は“特定しない一般的な注意、警告、危険”を示します。

 ○記号は禁止(してはいけないこと)を示します。具体的な強制内容は○の中や近くに文章や絵で示します。

 ●記号は強制(必ず守ること)を示します。具体的な強制内容は、●の中や近くに文章や絵で示します。

左図の場合は“特定しない一般的な使用者の行為”を示します。

注意

※ 操作担当者は、この説明書を読み、十分に内容を理解した上で、ご使用を始めてください。 

※ 本書は、必ず操作担当者がいつでも見られる場所に保管してください。 

※ 取り扱いについて不審な点や、物品交換における点検や調整要領については、弊社又は、本機をお求めになった販売店までご連絡ください。
その際、必ず製造番号・型式・製造年月もあわせてご連絡くださいますようお願い致します。

●移動式昇降足場『のぼる君』は特別講習が不要です。

[理由]

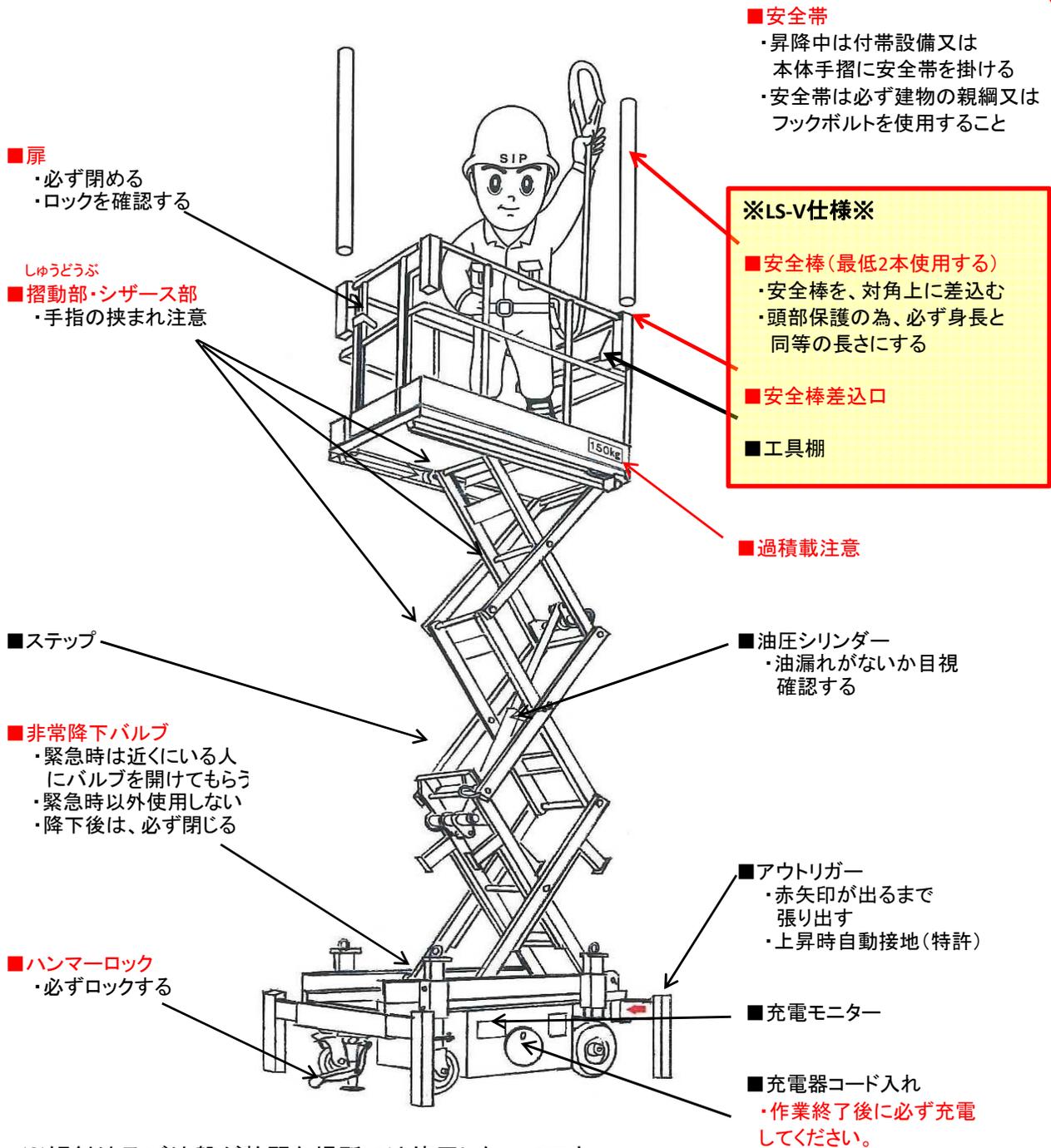
高所作業車の定義

「高所作業車」とは、高所における工事、点検、補修等の作業に使用される機械であって作業床(各種の作業を行うために設けられた人が乗ることを予定した床をいう。)及び昇降装置により構成され、当該作業床が昇降装置その他装置により上昇、下降等をする設備を有する機械のうち、動力を用い、かつ、不特定の場所に自走することができるものをいうものであること。

なお、消防機関が消防活動に使用するはしご自動車、屈折はしご自動車等の消防車は高所作業車に含まれないものであること。(平成2年9月26日 基発第583号)

※(この項が該当しないため特別講習が不要です。)

【高所作業台 取扱注意事項】



- 扉
 - ・必ず閉める
 - ・ロックを確認する

- しゅうどうぶ
- 摺動部・シザース部
 - ・手指の挟まれ注意

- ステップ

- 非常降下バルブ
 - ・緊急時は近くにいる人にバルブを開けてもらう
 - ・緊急時以外使用しない
 - ・降下後は、必ず閉じる

- ハンマーロック
 - ・必ずロックする

■安全帯

- ・昇降中は付帯設備又は本体手摺に安全帯を掛ける
- ・安全帯は必ず建物の親綱又はフックボルトを使用すること

※LS-V仕様※

- 安全棒(最低2本使用する)
 - ・安全棒を、対角上に差込む
 - ・頭部保護の為、必ず身長と同等の長さにする

■安全棒差込口

■工具棚

■過積載注意

- 油圧シリンダー
 - ・油漏れがないか目視確認する

- アウトリガー
 - ・赤矢印が出るまで張り出す
 - ・上昇時自動接地(特許)

■充電モニター

- 充電器コード入れ
 - ・作業終了後に必ず充電してください。

※傾斜地及び地盤が軟弱な場所では使用しないで下さい。

※始業前点検を確実に行ってください。(オイル漏れ・操作ボタン・充電状態確認・充電器コードの収納)

※荷又は工具は、偏荷重、集中荷重とならないように、作業床手摺からはみ出さないこと。

※必ず人がいないか周囲を確認してから操作してください。

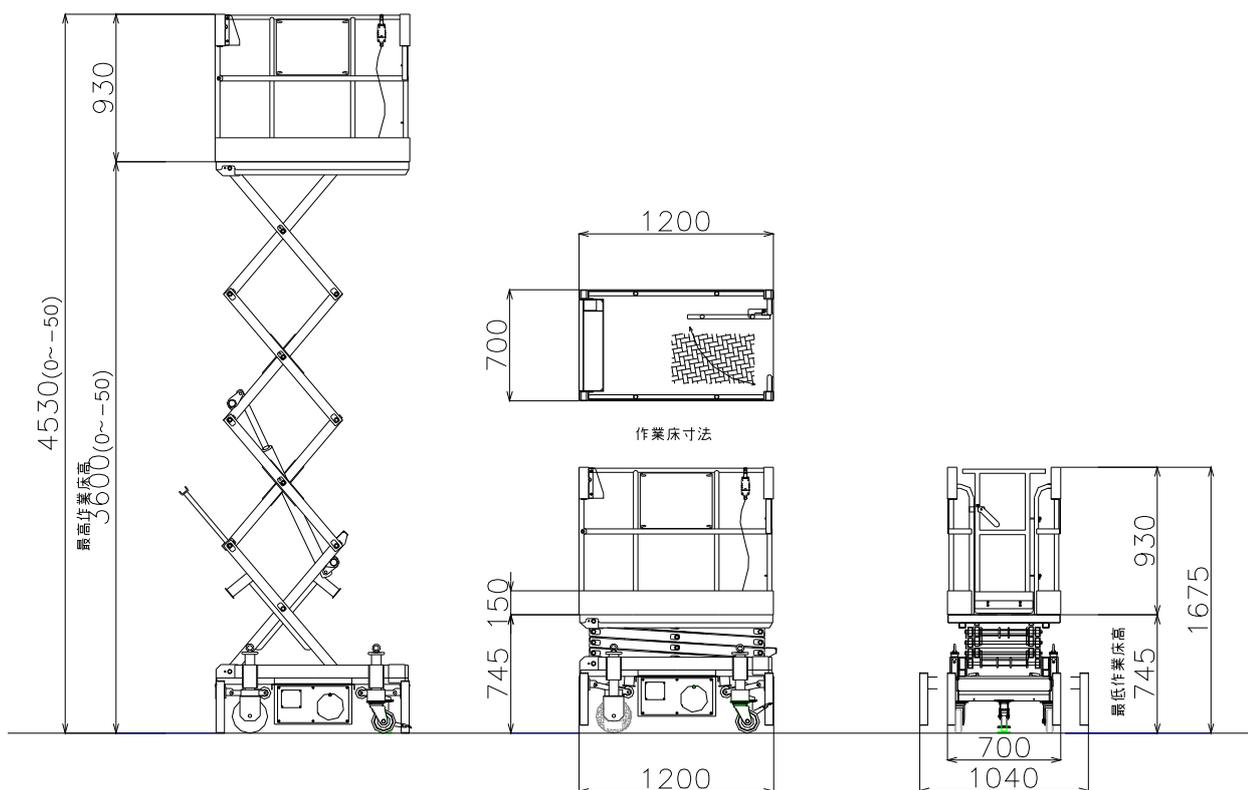
※断続のON・OFFは故障しますのでやめてください。

※バッテリーは自然放電しますので、未使用・保管時も約2週間に1度は必ずバッテリーチェック及び充電をしてください。

※充電中の作動はしないでください。(故障の原因となります)

※取扱説明書をよくお読みの上ご使用ください。

《機械の仕様 LS-36V》

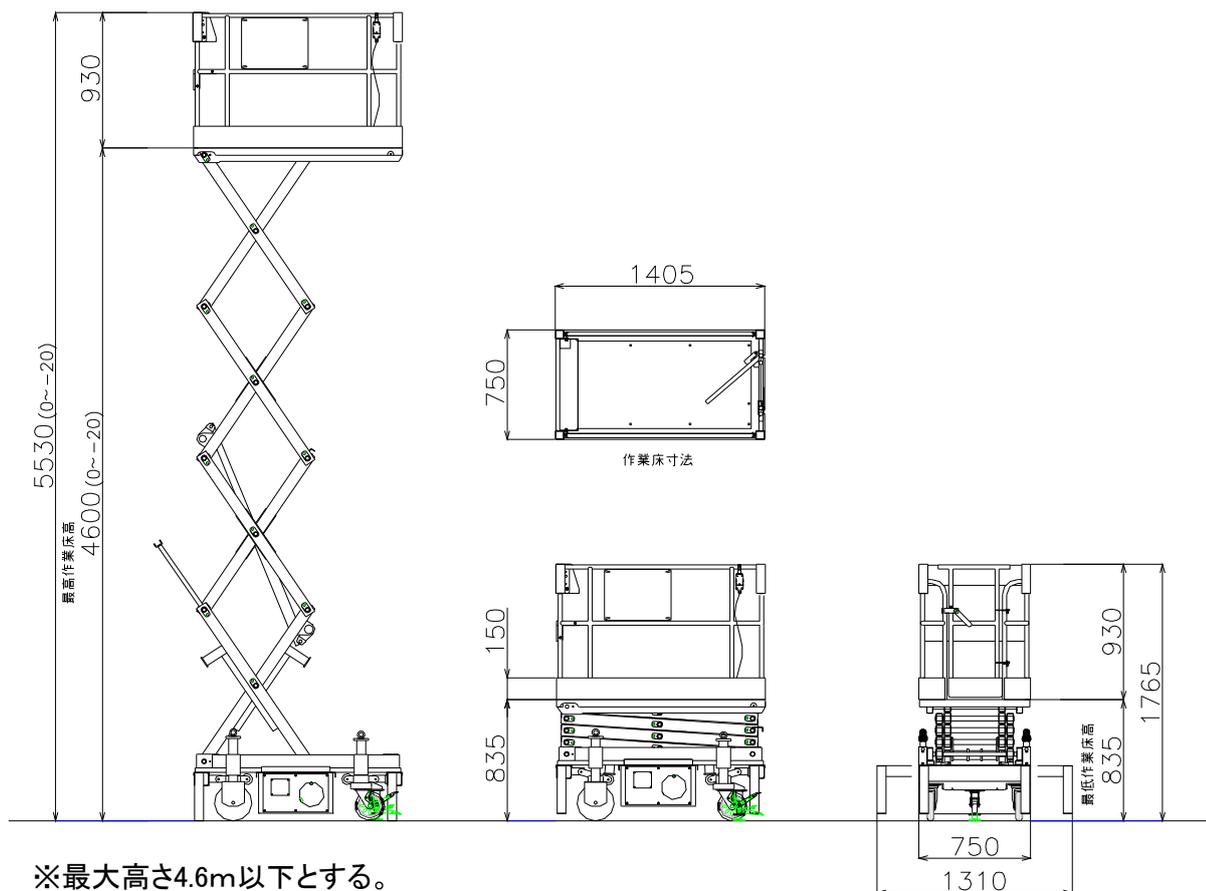


※最大高さ3.6m以下とする。

※無負荷の状態とする。

型式	LS-36V
最高作業台高	約3,600mm (0~50mm)
最低作業床高	約745mm
作業台寸法 (長さ×幅×高さ)	格納時 約1,200mm×約700mm×約1,675mm 最高時 約1,200mm×約700mm×約4,530mm (0~50mm)
アウトリガー張り出し	約1,040mm
最大積載荷重	150kg
自重	370kg以下
電源	バッテリー 12V 38Ah (ボックス内固定とする)
充電器	AC85V~260V 消費電力 0.15KW
昇降回数(満充電)	約50回
充電時間	約12時間
操作方法	ペンダントスイッチ(2PB)
昇降装置	油圧パッケージDC12V 800W 定格30秒
安全装置	油圧回路リリーフ設定
	シリンダーの油圧ホース取出し部逆止弁
	非常降下バルブ(油圧抜き)
	降下時ブザー警報
表面仕上げ	アウトリガー上昇時自動接地(特許)
	本体 亜鉛溶融メッキ 購入品についてはメーカー仕様

《機械の仕様 LS-46V》



※最大高さ4.6m以下とする。

※無負荷の状態とする。

型式	LS-46V
最高作業台高	約4600mm(0~-20mm)
最低作業床高	約835mm
作業台寸法 (長さ×幅×高さ)	格納時 約1405mm×約750mm×約1765mm 最高時 約1405mm×約750mm×約5530mm(0~-20mm)
アウトリガー張り出し	約1310mm
最大積載荷重	150kg
自重	520kg以下
電源	バッテリー 12V 65Ah (ボックス内固定とする)
充電器	AC85V~260V 消費電力 0.15KW
昇降回数(満充電)	約50回
充電時間	約12時間
操作方法	ペンダントスイッチ(2PB)
昇降装置	油圧パッケージDC12V 800W 定格30秒
安全装置	油圧回路リリーフ設定 シリンダーの油圧ホース取出し部逆止弁 非常降下バルブ(油圧抜き) 降下時ブザー警報 アウトリガー上昇時自動接地(特許)
表面仕上げ	本体 亜鉛溶融メッキ 購入品についてはメーカー仕様

2. 使用方法『指差呼称でお願いします』



- ①使用前に作業台の損傷が無いを確認する。
設置場所の状況確認する。
- ・作業場所に近く無理の無い位置に設置する。
 - ・安定した場所に水平に設置する。
 - ・作業台下には物が無いか確認する。
 - ・周囲は整理整頓されているか確認する。
- ※最大積載荷重をこえての使用ならびに主たる用途以外の使用は行わないでください。



- ②ストッパーをセットする。
・必ずセット状態を確認してください。



- ④作業台に乗り込む。
・扉を開き必ず作業台に向って足元を確認し乗り込んでください。
※安全帯は必ず装着し使用してください。



- ③アウトリガーをセットする。
・全てのアウトリガー(4箇所)必ず矢印の位置まで張出しフックをセットしてください。



- ⑤扉を閉める。
・扉を閉め、必ずロックを確認してください。



- ⑥上昇前に周囲の確認をする。
・周囲に障害物等が無いか確認してください。



⑨上下スイッチを操作し下降する。
 ・降下の際は周囲に障害物が無いか確認する。
 ・スイッチボタンの位置を確認し操作する。



⑩作業台から降りる。
 ・完全に作業台が降りたことを確認し扉を開き必ず作業台に向かって足元を確認し降りてください。



⑧高所作業時は安全帯を必ず使用してください。



⑦上下スイッチを操作し上昇する。
 ・スイッチボタンの位置を確認し操作する。
 ※上昇及び下降時は安全帯を使用してください。

してはならない



作業台より身を乗出しての作業はしないでください。



作業台に踏み台等を載せて使用しないでください。



手摺に載らないでください。



必ず作業台の扉に向かって昇降を行ってください。

3. 非常時の降下について（非常降下バルブの使用）

❗ 下記事項以外は使用しない

※作業台の人が操作不可能の場合

※電気系のトラブルが発生した場合

※点検時のチェック

作業床が降下不能となった場合に備え、作業床を降下させる事を目的としています。

操作手順

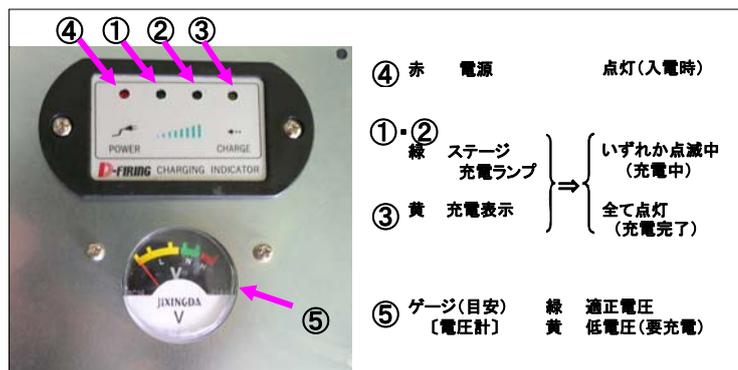
<p>(1)ふたを開ける。</p>	
<p>(2)バルブを回す。 (左へ回すとゆっくり下降してきます。)</p> <p>❗ 下降後は必ず閉じてください。 (右へ回す。)</p>	

4. 充電器の仕様

メーカー：D-FIRING

品番：DZC-P1208N

方式	単相全波整流 自然冷却 連続定格
初期電流制御	満充電自動停止
入力	単相85V~260V 50/60Hz 0.15kw
出力	DC12V 8A
表示	モニターランプ付き
ACコード	ソフト1.25mm2S-VCT1.7sp 3Pポッキングプラグ
DCコード	ビニールコード1.25sq 赤黒



⚠ 充電中に操作はしないでください。

過充電防止の為、充電完了後は速やかにコンセントを取外してください。

5. 吊り上げ方法

移動式昇降足場『のぼる君』フォークリフト使用の場合の吊り上げ方法

 ※移動式昇降足場『のぼる君』はできるだけフォークリフト本体に近づけて載せてください。



縦方向にて積む場合



横方向にて積む場合



 必ずストッパー側よりストッパーが中心になるようにフォークを差し込んでください。



 フォークにBOXが完全に載るのを確認の上、上昇させること



極力フォークを深くさし込んでください。



極力フォークを深くさし込んでください。

移動式昇降足場『のぼる君』クレーン使用の場合の吊り上げ方法



写真は4点吊りです。

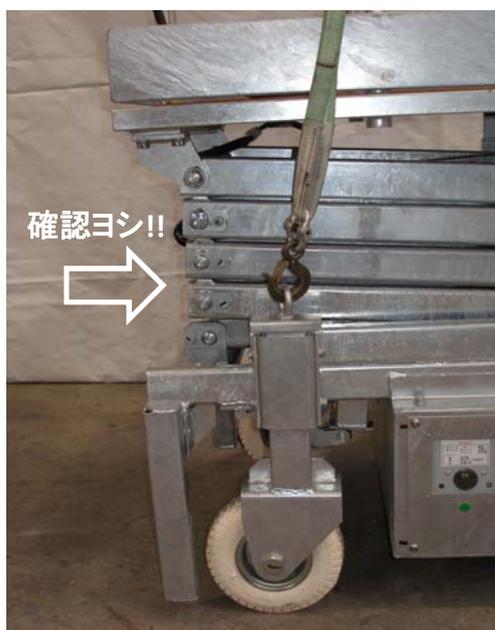


適正なスリングを使用してください。



アイボルト(4ヶ所)あり。

4点吊りしてください。



吊り上げた状態

6. 作業台の設置にあたって

(1) 運搬・荷降ろし

警告 	
運搬時は、落下・移動すると危険ですので、固定してください。	
荷降ろしの際は仕様欄、カタログ等により機械の重量を確認し、適正な方法をお願いします。 吊上げる際には、別写真(前頁)の通り行ってください。(フォークリフトの場合も同様)	

(2) 設置場所

注意 	
・地盤が堅固で傾斜のない場所かつ、凹凸の無い平らな場所に設置の上ご使用ください。	
・周囲温度が-10℃～40℃でなるべく風通しの良いほこりや湿気の少ない所に設置してください。	
・腐食性・引火性・爆発性の液体やガスのある場所でのご使用は、避けてください。また、屋外でのご使用・保管の際には、雨等がかからないよう、配慮してください。	

7. 使用上の注意

本機を末永くご使用頂くため、次の事項を厳守してください。

危険 	
荷重は最大積載荷重以内のこと 最大積載荷重以上の荷重は、機械の損傷等、重大な事故を起こす原因となります。 最大積載荷重を超えないことを厳守してください。	
片荷・偏荷重・集中荷重・はみ出し荷重はしないこと。 テーブルの端部のみ荷重や、一点のみ荷重・テーブルからはみ出した荷重・安定性のない品物は荷崩れ・落下・他の設備との干渉の原因となります。	
機械の内部に物を入れないこと 機械内に物を入れると、リフトテーブル昇降中の思わぬ事故につながります。木くず・鉄くず・その他異物が機械内に入ったり触れたりしない様、十分に注意してください。	

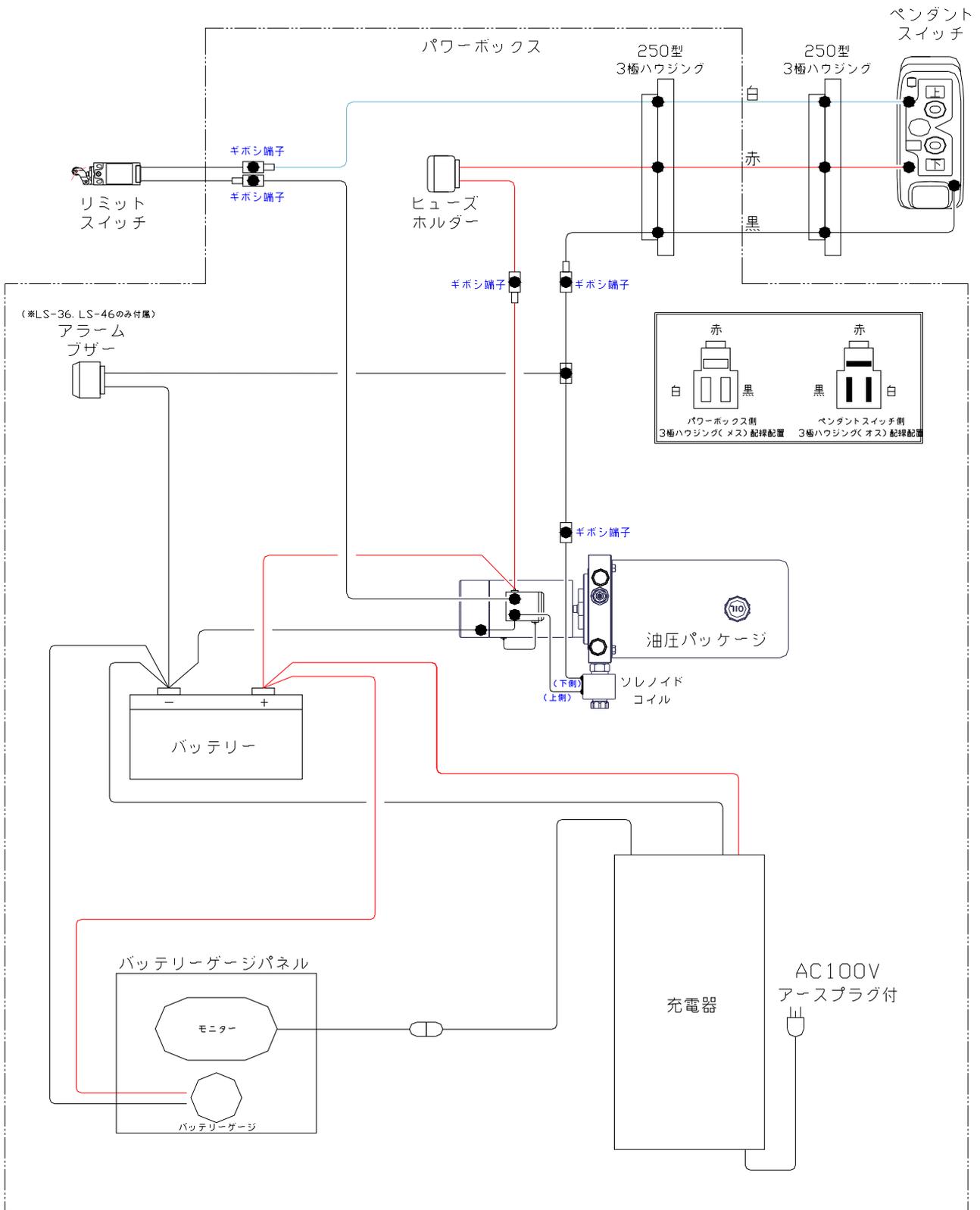
警告 	
傾斜した場所に止めないでください。	
電装部分は水で濡らさないようにしてください。	
本体を倒さないでください。	
引火性物質(シンナー・ガソリン・灯油・塗料)の保管場所、またはそれが気化し、滞留している場所では使用しないでください。	
運転中は関係者以外の人が近寄らないこと(周囲に人がいないことを確認) 関係者以外の人が誤った運転操作をすると、思わぬ事故を起こすことがあります。 本機の定められた担当者が操作権をもち、よく合図して、安全運転をしてください。	

注意 	
充電完了後は速やかにコンセントを取外してください。	
充電中は操作しないでください。	

8. 試運転

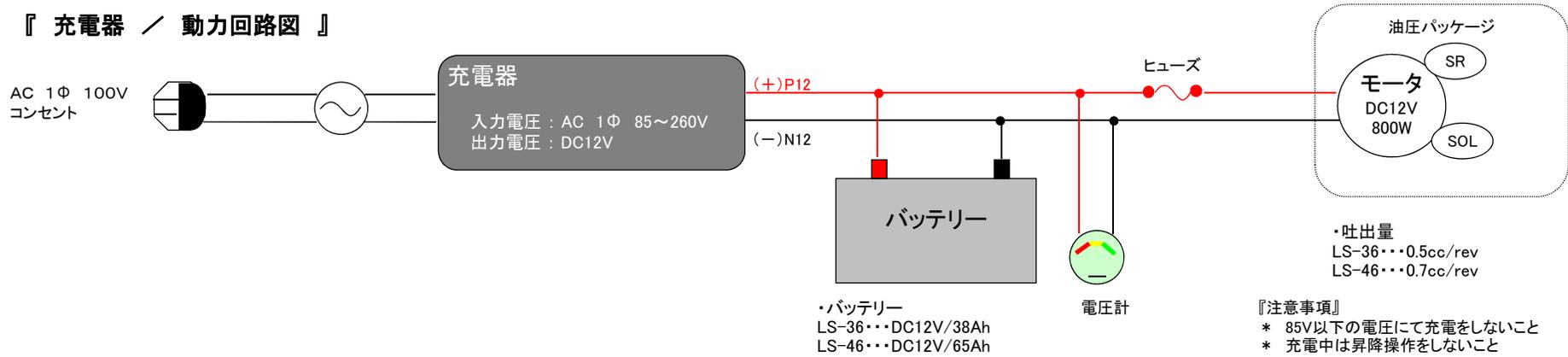
・始業前点検記録表に基づく点検実施後、操作スイッチのボタンを押し上昇、下降の動作確認を実施してください。

9.操作電気配線図(LS-36V,LS-46V共通)



《 電気回路図 》

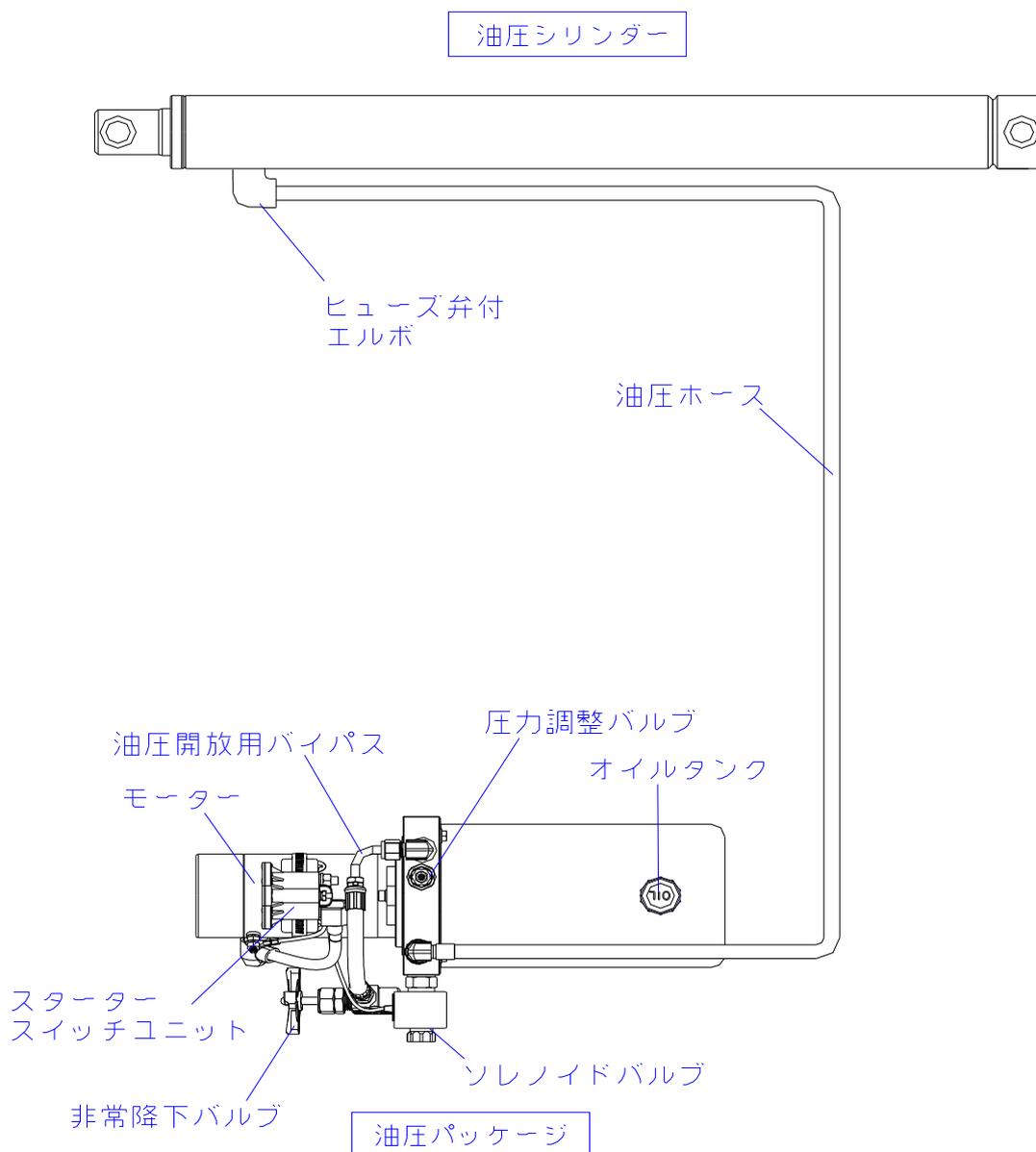
『 充電器 / 動力回路図 』



『 電気回路図 』



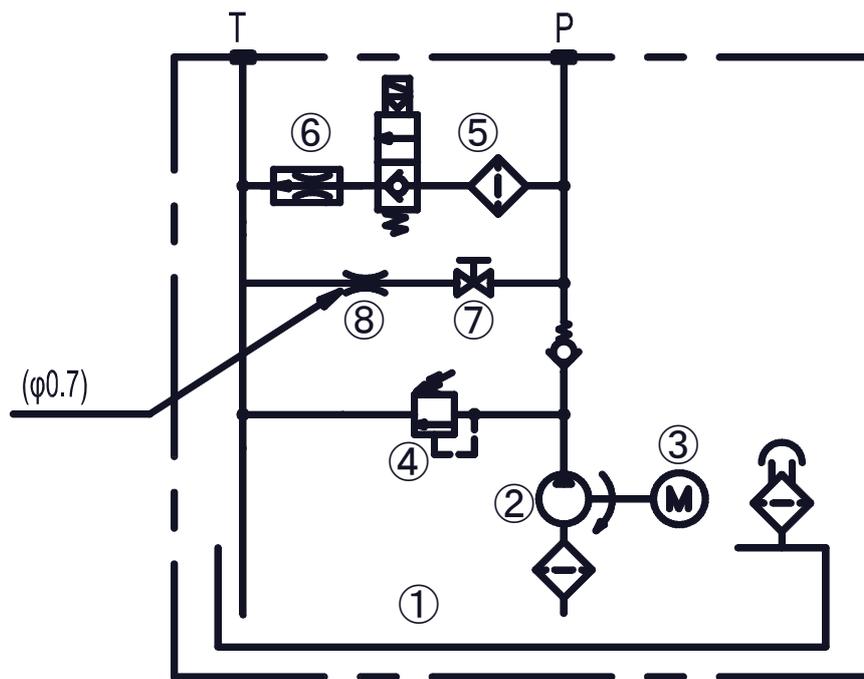
10.油圧回路図



過荷重等によりヒューズ弁が作動し、安全確保の為ペンダントスイッチによる作業床の昇降操作が出来なくなる場合があります。

《油圧回路図》

	LS-36V	LS-46V
① 油タンク	1.9ℓ	3.0ℓ
② ポンプ	0.5cc/rev	0.7cc/rev
③ モーター	DC12V 800W	DC12V 800W
④ リリーフ弁	180kg/cm ²	180kg/cm ²
⑤ ソレノイドバルブ	12V	12V
⑥ フロートコントロールバルブ	2ℓ/min	3ℓ/min
⑦ ニードルバルブ(非常降下弁)	有り	有り
⑧ オルフィス	φ0.7	φ0.7



11. 保守・点検

油圧装置における日常点検・定期点検は一般産業機械と同様、必ず励行してください。
特に、運転前の安全確認を怠りますと、思わぬ事故を引き起こす原因となります。

- (a) 始業前点検 始業前点検記録表に基づく(別表19ページ)
- (イ) 各部品に亀裂、破損及びボルト類に緩みがないか。
 - (ロ) 各ピン(アーム及び油圧シリンダーの取付ピン)から異音が発生していないか。
 - (ハ) 油タンクに油量は適正か。
- (ニ) 油圧機器やホース及び配管から油漏れをしていないか、また損傷がないか。
- (ホ) 電気配線に異常はないか。
- (b) 定期点検 定期検査表に基づく(別表20ページ)
- (イ) 作業台の上昇・下降動作に異常はないか。
 - (ロ) 異常音(本体・機械・ポンプ・リリーフバルブ等)はないか。
 - (ハ) 油漏れはないか。
- (c) 運転終了後
- (イ) 前述の(a)運転開始前の項目を再確認してください。
 - (ロ) 翌日作業の為に充電器のコンセントをAC100V電源に接続し、バッテリーを充電してください。
 - (ハ) 長期保管の際は、2週間程度の間隔で充電を行ってください。

注 意

充電完了後は速やかにコンセントを取外してください。



充電中に操作はしないでください。



危 険

日常点検により、万一異常が発見された場合は、運転中であれば直ちに運転を停止し、原因を調査の上適切な処置を施し、運転を開始してください。

整備をする時には、作業台を上昇させ機械内での整備作業等の場合には、必ず下降防止措置を実施してください。



12. トラブルシューティング

リフター部

(a) 上昇しない

現象	原因	対策
モーターが起動しない	バッテリーの消耗	充電する又は交換
	操作スイッチの故障	操作スイッチの交換
	接続電線の断線及び固定のゆるみ	配線を調べる
	モーターの故障	油圧ユニットの交換
リリーフ弁が作動する	荷が重すぎる	規定の重量以下の荷重とする
モーターが起動しても動かない	非常降下バルブが開いている	非常降下バルブを閉めてください

(b) 上昇するが...

現象	原因	対策
断続的に上昇する	エアの混入	5～6回昇降させ最下限でしばらく下降ボタンを押したままにしておく
上限まで上昇しない	油圧作動油の不足	油圧作動油の補充
停止しても自然に下降する	ソレノイドバルブに異物の混入	分解掃除、又は、バルブの交換をする。
	チェック弁に異物の混入	修理
	非常降下バルブが開いている	非常降下バルブを閉めてください
軸受部から音が出る	軸受部の油切れ	グリスの給脂
途中で止まる	配線コネクター一部の接触不良	修理

(c) 上昇したが下降しない

現象	原因	対策
ソレノイドコイルが作動しない (カチッという切り替わり音)	接続の断線	配線を調べる
	操作スイッチの接触不良	操作スイッチの交換
	ソレノイドコイルの焼損	ソレノイドコイルの交換
ソレノイドコイルは作動するが 下降しない (カチッという切り替わり音)	電磁弁の故障	電磁弁の交換
	機械内に障害物のかみこみ	障害物を取り除く
音がしなく下降しない	接続線の接触が悪い	コネクター部を再点検し、配線の損傷を調べる
	シリンダー内のヒューズ弁が作動	・上昇スイッチで上昇し、再度下降スイッチで下降させるとヒューズ弁が解除になります。 ・再度行ってもヒューズ弁が解除しない場合は積載荷重オーバーの為、荷を降ろしてください。

(d) 油圧作動油

油圧作動油は ISOVG#32(テラスオイル#32相当品)をご使用ください。

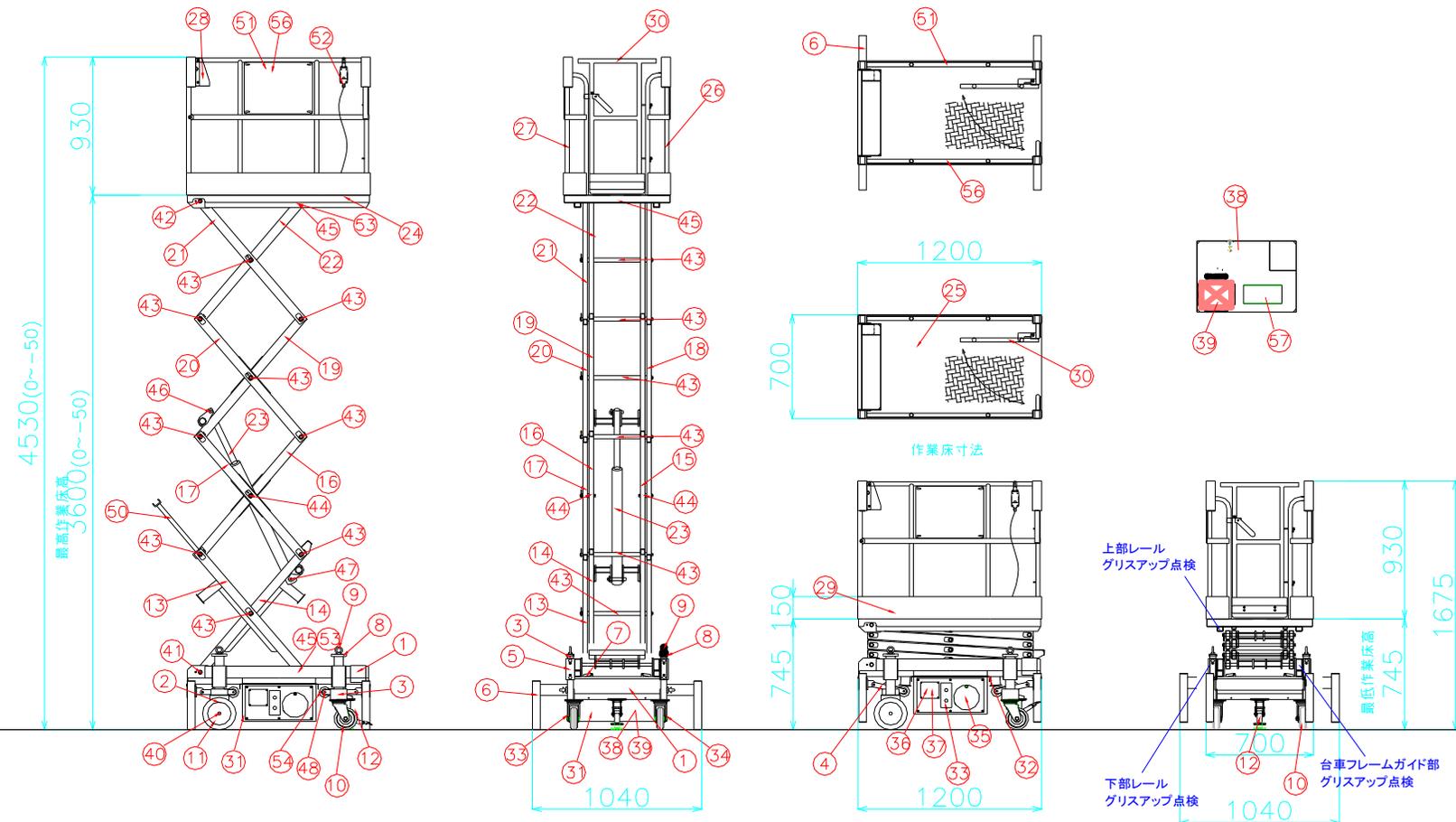
(e) 定期要領

点検は、次表に従って行ってください。

点検要領表						
	点検項目	点検方法	処置	点検周期		
				日	毎	毎
				常	月	十二ヶ月
1	各部品の亀裂、破損	目視	部品の交換	○		
2	ボルトの緩み	目視 ◎工具等による	緩んでいれば増し締め	○	◎	
3	軸受部	作動状況により点検(異音)	グリス給脂	○		
4	油圧機器・配管等の油漏れ	定期給脂	グリス給脂		○	
		目視	油漏れのないこと	○		
5	オイルタンクの油量	聴覚(異音)、油量	油圧作動油補充		○	

注) 部品交換及び修理は、人身事故及び機械の損傷につながるものもありますので、要領については弊社又はお求めになった販売店までご連絡ください。

13. 各部の名称及びグリスアップ点検



番号	名称	数量
1	ベースフレーム	1
2	台車フレームA	1
3	台車フレームB	1
4	浮上用リフトアーム	4
5	台車スライドガイド	2
6	アウトリガー	4
7	アウトリガーストッパー	4
8	アウトリガーキャップ	4
9	アイボルト	4
10	自在キャスター	2
11	ノーバンクゴムタイヤ(白)	3
12	ハンマーロック	1
13	リフトアームA	1
14	リフトアームB	1
15	リフトアームC1	1
16	リフトアームD	1
17	リフトアームC2	1
18	リフトアームE1	1
19	リフトアームF	1
20	リフトアームE2	1
21	リフトアームG	1
22	リフトアームH	1
23	シリンダー	1
24	作業床フレーム	1
25	作業板(アルミ鏡板)	1
26	手摺(扉ヒンジ側)	1
27	手摺(扉ハンドル側)	1
28	工具棚	1
29	巾木	1
30	扉+ハンドル	1
31	ボックス本体	1
32	ボックス上蓋	1
33	サイドパネル(充電器側)	1
34	サイドパネル(降下バルブ側)	1
35	サイドパネル丸蓋	2
36	バッテリーゲージ	1
37	バッテリーゲージ樹脂パネル	1
38	油圧パッケージ	1
39	バッテリー	1
40	車輪取付シャフト	1
41	シャフト(ベース+リフトB)	1
42	シャフト(作業床フレーム+リフトG)	1
43	シャフト(シザース軸・長)	9
44	シャフト(シザース軸・短)	2
45	シャフト(ローラー部)	2
46	シリンダー取付シャフト・上	1
47	シリンダー取付シャフト・下	1
48	車輪φ75取付ピン(CS追加)	12
49	座金φ2t	15
50	落下防止金具	1
51	注意事項看板	1
52	ペンダントSW+フック	1
53	ローラーφ75	4
54	浮上用ローラーφ21(8個一式)	1
55	ホルト一式	1
56	取扱説明書入れ看板	1
57	充電器	1

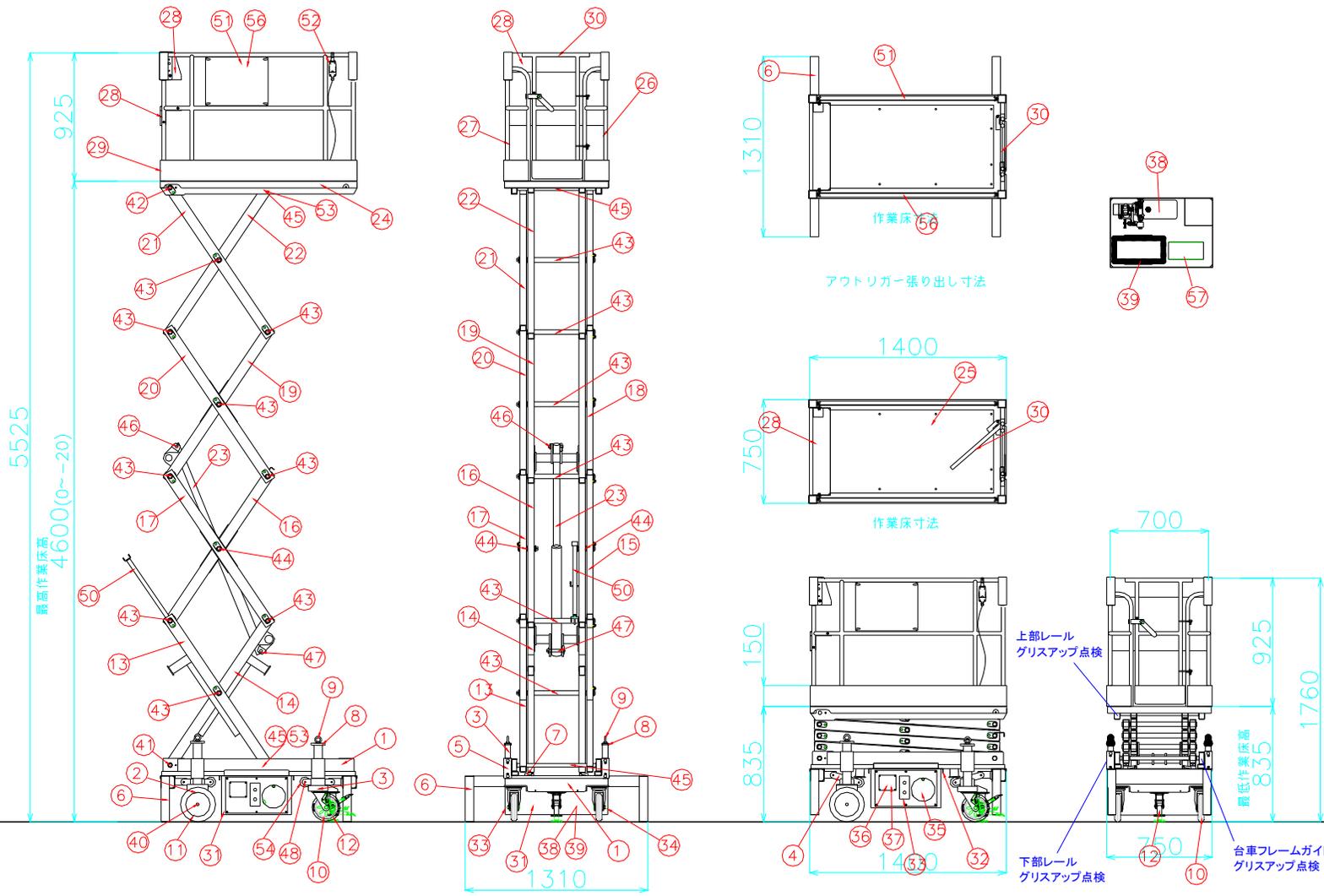
記号	変更事項	年月日	訂正	審査
△				
△				
△				
△				

呼び寸法区分	品番	部品名	数量	材質・規格	備考
4以下	0.1	処理			
4以下	0.2	処理			
16~63	0.3	日付			
63~250	0.5	承認			
250~1000	0.8	承認			
ISOネジ					

呼び寸法区分	品番	部品名	数量	材質・規格	備考
4以下	0.1	処理			
4以下	0.2	処理			
16~63	0.3	日付			
63~250	0.5	承認			
250~1000	0.8	承認			
ISOネジ					

組図 各部名称及び給油点検箇所

番号	名称	数量
1	ベースフレーム	1
2	台車フレームA	1
3	台車フレームB	1
4	浮上用リフトアーム	4
5	台車スライドガイド	2
6	アウトリガー	4
7	アウトリガーストップバー	4
8	アウトリガーキャップ	4
9	アイボルト	4
10	自在キャスター	2
11	ノーバンクゴムタイヤ(白)	3
12	ハンマーロック	1
13	リフトアームA	1
14	リフトアームB	1
15	リフトアームC1	1
16	リフトアームD	1
17	リフトアームC2	1
18	リフトアームE1	1
19	リフトアームF	1
20	リフトアームE2	1
21	リフトアームG	1
22	リフトアームH	1
23	シリンダー	1
24	作業床フレーム	1
25	作業板(アルミ編板)	1
26	手摺(扉ヒンジ側)	1
27	手摺(扉ハンドル側)	1
28	工具棚	1
29	巾木	1
30	扉+ハンドル	1
31	ボックス本体	1
32	ボックス上蓋	1
33	サイドパネル(充電器側)	1
34	サイドパネル(膝下バルブ側)	1
35	サイドパネル丸蓋	2
36	バッテリーゲージ	1
37	バッテリーゲージ樹脂パネル	1
38	油圧パッケージ	1
39	バッテリー	1
40	車輪取付シャフト	1
41	シャフト(ベース+リフトB)	1
42	シャフト(作業床フレーム+リフトG)	1
43	シャフト(シザース軸・長)	9
44	シャフト(シザース軸・短)	2
45	シャフト(ローラー部)	2
46	シリンダー取付シャフト・上	1
47	シリンダー取付シャフト・下	1
48	車輪φ75取付ピン(CS追加加工)	12
49	座金4.5t	15
50	落下防止金具	1
51	注意事項看板	1
52	ペンダントSW+フック	1
53	ローラーφ83	4
54	浮上用ローラーφ21(8個一式)	1
55	ポルト一式	1
56	取扱説明書入れ看板	1
57	充電器	1



記号	変更事項	年月日	訂正	審査
△				
△				
△				
△				

普通寸法公差	品番	部品名	数量	材質・規格	備考
呼び寸法区分	公差				
4以下	0.1				
4.1~16以下	0.2	日付	尺数	第三角法	LS-46V 組図 各部名称及び 給油点検箇所
16~63	0.3	日付	尺数	型式	
63~250	0.5	承認	検	設計	
250~1000	0.8	承認	検	製	
1000以上	1.0	承認	検	製	

製造番号

定期検査表

検査終了後は必ず荷重テスト(150kg以上)適正高さ迄上昇のうえ、
10時間保持とし、その後油漏れの確認を再度行い出荷

検査者		

※指差呼称を行うこと

実施日 年 月 日

項目	チェック項目	機械名		
		LS-36V	LS-46V	
重要チェック		作業床及びベース		
		ボルトのゆるみ		
		溶接の亀裂		
		溶接の肉もり		
		シリンダー両端		
		溶接の亀裂 溶接の肉もり		
油 圧	油量は適正か (所定の高さ確認)			
	漏れ ホース両端の袋ナットの締付けは適正か			
	食込み継手のコマはパイプ端から3mm以上入り込んでいるか			
	食込み継手の袋ナットの締付けは適正か			
	油ホースのネジレがなく綺麗なS字カーブに成っているか			
	油ホースの角度は適正か 非常降下バルブの状態			
台車フレーム	自在キャスター ハンマーロックのボルト・ナット・スプリングW(12箇所)			
	白タイヤのストップリング (左右)			
	アイボルトの締め付けは充分か (4箇所)			
	連結コマの割ピンは適正か (4箇所 8本)			
ベースフレーム	アウトリガーストッパー (4箇所)			
	リミットスイッチのボルトの締め付け			
	台車フレームガイドのMCナイロン (4箇所 16個)			
	台車フレームガイドのボルト・SW・丸W 締め付けは適正か(4箇所 16個) 台車フレームのスライド部とカバー部の隙間 2~3mm空けること			
リフトアーム(小)	軸部の割ピン (2箇所)			
リフトアーム	MCナイロン			
	MCナイロンとベースフレームレールの隙間は適正か (上下2箇所)			
	軸部シャフトの回転止ボルト・SW・丸W 締め付けは適正か			
作業床	手摺り部連結バンド			
	手摺り部と作業床の連結ボルト 丸W・SW			
	作業床コンパネのトラスネジの締め付け			
電 気	ペンダントスイッチの作動			
	ケーブルの損傷			
	コルゲート端のテーピング (距離に応じ数箇所)			
	コネクタ部は電線とコルゲートを一体化にする(コルゲート端を斜めカット) ポッキンコードの固定			
充 電 器	各ランプの点灯			
	出荷前の充電機能の確認 (前日とは限らない)			
外 観	本体の変形・損傷 (補修)			
表 示	製造番号			
	各種安全シール			

備考

結び

この取扱説明書を熟読され、弊社の高所作業台を正しく100%活用して頂き、貴社の明日からの尚一層のご発展につながるよう心より期待しております。

なお、本機は改良のため予告なしに変更することがあります。この取扱説明書と本機の間には若干の相違が生ずることがありますのでご了承ください。



〒950-0162 新潟県新潟市江南区亀田大月2-498-3
TEL: (025) 385-8101 FAX: (025) 385-8102